

Mailing No. 120119

Mailing Date: March 28, 2006

Patent Application No. 2000-563004

Cited Reference(s)

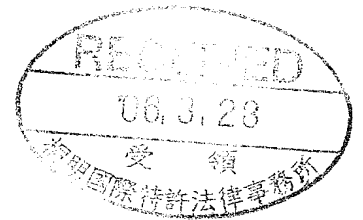
D1: Nucleic Acid Research, Vol. 27, No. 9, pages 1970 to
1977 issued in 1999

D2: Japanese Laid-Open Patent Publication No. 11-187900

Examiner's Statement

Claims 1 to 58 are rejected in view of references D1 and
D2 for lack of inventive step.

拒絶理由通知書



特許出願の番号	特願2002-563004
起案日	平成18年 3月 7日
特許庁審査官	加々美 一恵 9408 2J00
特許出願人代理人	千葉 剛宏 (外 1名) 様
適用条文	第29条第2項

SECRET

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項1-58について

第1引用例には、各種官能基からなるDNA等の生体物質固定化用の固定化液や固定化を助けるための液を基板に作用させ、DNA等を含む溶液試料を作用させてバイオチップを製造する方法、及び該方法で製造されたバイオチップについて記載されている(第1引用例Abstract, Materials and Methods, Figure 1-3, Table1等参照)。

また、第2引用例には、DNAチップにおいて、隣接するウェルの間にプローブ溶液に対する親和性の低いマトリクスを設けることについて記載されており(【0052】等参照)、第1引用例に記載のバイオチップにこれを採用することは、当業者が容易になし得たものである。

バイオチップ製造における溶液供給手段としてインクジェット、スクリーン印刷等の技術は既によく使用されている。

引用文献等一覧

第1引用例 Nucleic Acid Research 第27巻9号 第1970~1977頁(1999年)

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

- ・ 調査した分野 I P C G01N33/48-33/98
 D B 名
- ・ 先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この出願に関する連絡先

特許審査第一部材料分析：加々美一恵

（電話番号 03-3581-1101 内線 3252）